平成３０年度　中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
1 学びがあり進路実現できる学校 ①習熟度別授業、ＡＬ型授業を充実し、授業力を向上する。 ②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。 ③３年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。	＊ 習熟度別授業 ＊ 個別添削指導 ＊ ＡＬ型授業のための研修会	習熟度別授業やＡＬ型授業を通して、授業への理解度が高まったと考える生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％以下	７８％　Ｂ	成　果：各教科で教科会を持ち、効果的な習熟度別授業やＡＬ型授業について検討し、授業力が徐々に向上しているため、理解度が高まったと考える生徒が増えていると思われる。 課　題：７８％のうち「高まった」と考える生徒の割合が２０％にとどまっており、「ある程度高まった」と考える生徒の割合が５８％と比較して非常に低いこと。 改善策：計画的に教科会を持ち、教員間で情報共有を図るとともに、ＡＬ型授業研修会を通して、授業力向上に努める。
	＊ 習熟度別学習課題 ＊ 学習時間調査 ＊ 個別面談	自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	６６％　Ｂ	成　果：授業と連動した学習課題の工夫を行うことで、家庭学習時間が、１・３年生普通科でわずかながら増加した。 課　題：調査結果の割合が、昨年度同時期と比較して５％減少していること。 改善策：チームコアの取組の一環として、生徒が家庭で学習する意欲が高まるような学習課題を各教科で研究し、担任が学習時間調査の集計結果を効果的に活用できるように個人面談の充実を図る。
	＊ ３年間を見通した指導計画の作成と実践 ＊ 進路自主学習	内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満		成　果： 課　題：　進路状況確定後に判断 改善策：

平成３０年度　中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2 人間力を向上できる学校 ①学校行事を通し、仲間を大切にし、他者を思いやる心を育成する。 ②課外活動を通し、主体的、能動的に行動できる生徒を育成する。 ③両科生徒が協働した事業を実施し、他者と切磋琢磨することにより自己研鑽できる生徒を育成する。	＊ チャレンジウォーク ＊ 文化祭 ＊ 体育祭 ＊ 球技大会	学校行事への取組を通して他者を思いやることが多くなったと考える生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	８９％ Ｂ	成　果：チャレンジウォーク、文化祭、球技大会等の行事を通して、一生懸命頑張ることで、クラスの団結力を高めたり、他者を思いやることができる生徒が多くなった。 課　題：思いやることが多くなったと考える生徒の割合は、１年生では割合８４％と、２・３年生の９１％に比べてやや低かったこと。 改善策：１年生の１１月に予定している地域学習発表会では、お互いに協力して取り組む場面も多く、このような機会を捉えて他者を思いやる気持ちを育てる。
	＊ 部活動 ＊ ボランティア活動	部活動などの課外活動に積極的に取り組むことができたと考える生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	８６％ Ｂ	成　果：部活動などの課外活動に積極的に取り組むことが「できた」・「ある程度できた」と考える生徒の割合が８６％となり、概ね良好な結果となった。 課　題：「できなかった」「あまりできなかった」と考える生徒が能動的に活動できる場面設定を工夫していくこと。 改善策：部活動や課外活動においては、日々の練習や対外試合・他校との交流等を通して、良好な人間関係形成に努めながら、生徒の主体性向上を図る。
	＊ 全校挨拶運動 ＊ 登校指導	ＴＰＯに応じて、適切な振る舞いができていると考える生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	９０％　Ａ	成　果：部活動ごとやＰＴＡと連携した登校時の挨拶運動に、生徒が積極的に取り組む様子が見られた。 課　題：登校時の挨拶運動から、来校者への挨拶励行や日頃の身だしなみに注意するなど、規律ある学校生活へと繋げていくこと。 改善策：生徒会執行部と連携し、主体的に分析し、生徒間でさらなる改善方法を検討する。

平成３０年度　中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
3 地域と共に成長できる学校 ①小中学校等との協働研究事業を推進する。 ②小中学校との生徒間交流事業を拡充する。 ③実践的・探究的地域学習を充実し、地域貢献意識の向上を図り、地域と連携したグローカル人財を育成する。	＊ 地域連携の協議会 ＊ 授業公開と授業参観 ＊ 研究授業と研究協議会	協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考える教員の割合が Ａ　７０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　３０％以上 Ｄ　３０％未満	６６％ Ｂ	成　果：本校の教員が市内の小中学校の授業を参観したことにより、授業の状況や児童、生徒の状況について理解を深めた。 課　題：調査結果の割合が、昨年度より１０％ほど減少していること。 改善策：小中学校の研究授業や学校公開等の期間を利用して、短時間でも積極的に参観するようにする。
	＊ 挨拶指導 ＊ 中高学習交流	小中学校との生徒間交流事業の実施回数が Ａ　８回以上 Ｂ　６回以上 Ｃ　４回以上 Ｄ　３回以下	５回 Ｃ	成　果：中学生との学習交流会や中学校でのキャリア教育講演会、挨拶指導に参加した生徒は、地元の生徒に「教える」という体験を通して地域貢献意識を高め、達成感を得た。また、体験入学では、生徒の中学生への接し方が良く、好印象を与えた。 課　題：小中学校からの要望も加味し、生徒が意欲的に参加できるように内容の充実を図ること。 改善策：小中学校との連絡調整や情報交換を行って、継続事業や新規事業の内容についても検討する。
	＊ 地域調べ学習と成果発表 ＊ 朝市出店販売実習 ＊ 地域ボランティア	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができた生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	８１％ Ｂ	成　果：地域調べ学習や地元企業見学会、インターンシップ、朝市販売実習を通して、生徒の地域理解が深まった。 課　題：地域の課題やその解決策について、より深く探究しようとする意識を高めること。 改善策：様々な取組後・活動後の事後指導を充実させ、課題解決への意識の深化を図る。

平成３０年度　中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
4 多忙化改善を積極的に実現する学校 ①ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る。 ②タイムマネージメントを生徒に意識させる学習指導、部活動指導の確立を図る。 ③会議の縮減や行事の精選等による業務の効率化を図る。	＊ 行事の精選・省力化 ＊ 会議方法の工夫	昨年度より多忙化改善への意識が高まり、効率よく業務に取り組むことができたと考える教員の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	８３％ Ａ	成　果：会議方法の工夫や業務の効率化により、教員の意識改革が少しずつ図られ、ワークライフバランスを考えるようになってきた。また、タブレットの活用により、職員朝礼なしでも、連絡がスムーズに行われるようになった。 課　題：さらに教員一人一人の多忙化改善への意識を高め、効率よく業務に取り組んでいくこと。 改善策：今までの取組を検証するとともに、効果的なタブレット活用によってペーパーレスを推進するなどの業務改善を図る。
	＊ 部活動年間計画 ＊ 学習時間調査	生徒の不注意による遅刻「０」の日数が年間を通して Ａ　１００日以上 Ｂ　　９０日以上 Ｃ　　８０日以上 Ｄ　　８０日未満		成　果： 課　題：　後期に確定後判断 改善策：
	＊ 定時退校日の設定 ＊ 時間外勤務時間調査	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より Ａ　１５％以上減少した Ｂ　１０％以上減少した Ｃ　　５％以上減少した Ｄ　　５％未満の減少であった	１０％減少 Ｂ	成　果：４月～８月における教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が、昨年度の６０．５時間に対し、本年度は５４．３時間と１０．２％減少した。 課　題：時間外勤務の４３．６％が部活動指導の時間であり、放課後の部活動等の指導方法を工夫していくこと。 改善策：放課後の部活動指導や学習・進路指導にはある一定時間の時間外勤務はやむを得ない状況であるが、タブレット等を有効活用するなど、通常業務及び会議や打合せのより一層の効率化に努める。